

第2回 精神神経内分泌免疫学(PNEI)研究集会

1. 日程

平成 17 年 6 月 25 日（土）13 時開始

2. 会場

同志社大学 今出川キャンパス 至誠館 5 階 大会議室
キャンパス地図

http://www.doshisha.ac.jp/daigaku/campus/non_imade/index.html

3. 交通

JR 京都駅、近鉄京都駅から

京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え「今出川駅」下車、3 番出口より徒歩 1 分

※当日は西門（キャンパスマップ参照）よりお入りください

京都市交通局（地下鉄） <http://www.city.kyoto.jp/kotsu/>

4. 主催

余語真夫先生 同志社大学

5. プログラム

13:00～13:45 前座

『急性ストレスと自律神経系、免疫系、内分泌系指標』

磯和勅子先生（三重県立看護大学）

要旨：急性ストレス（スピーチ課題）事態における生理的変化を自律神経系、内分泌系、免疫系指標を用いて評価した。各種指標の説明と分析方法について解説する。

13:45～14:30 演題 1

『卒業論文作成に伴うストレスとコルチゾール覚醒反応』

井澤修平先生（早稲田大学）

要旨：コルチゾールは朝、覚醒後 30 分に 50～160%増加することが報告されている。近年、このコルチゾール覚醒反応（Cortisol Awakening Response）が HPA 系の指標として注目されており、日常のストレスや気分との関連がいくつか報告されている。本研究では大学生の卒業論文の作成というストレスフルな状況を取りあげ、その前後でコルチゾール覚醒反応がどのように変化するかを検討した。被験者は 10 人の卒業論文を執筆する大学生であり、卒業論文提出 1 ヶ月前、2 週間前、数日前、提出 1 週間後の朝に唾液の採取が行われた。多変量分散分析の結果、コルチゾール値は提出数日前に特に上昇している傾向がみられた。

14:30～15:15 演題 2

『感情の持続に及ぼす認知的評価の影響の検討』

手塚洋介先生 (同志社大学)

要旨：人々は、状況に応じて多様な感情を体験する一方、客観的には同一状況下であっても異なる感情を示しうる。日常体験される感情は、それを誘発する状況を個人がどのように捉えるかによって刻々と変化し、個人と状況との関係性に強く影響されると考えられる。認知的評価とは、個人が状況に対して行う意味づけ過程であり、感情の生成や持続に強く影響を及ぼすと考えられている。本研究では、課題終了後の感情反応の持続に認知的評価が及ぼす影響を、心臓血管系指標を用いて検討した。観察型スピーチ課題終了直後に認知的評価の実験操作を行い、課題遂行に対して成功/失敗に関するフィードバック情報を呈示することで、個人と状況との関係性の変容を試みた。また、同操作が後続する課題遂行に及ぼす影響についても併せて検討を行った。

15:15～15:30 休憩

15:30～16:15 演題 3

『行動を脳とホルモンから探る

—活動性と脳が作る新奇ニューロステロイド—』

松永昌宏先生 (名古屋大学)

要旨：従来ステロイドホルモンは末梢内分泌器官で合成され、脳に作用して性行動やストレス応答を制御すると考えられていた。ところが最近の研究により、脳も独自にステロイドを合成することが明らかとなった。この脳が合成するステロイドをニューロステロイドと呼ぶ。本研究では、季節繁殖をする野生両生類のイモリの脳で繁殖期に活発に合成される7 α -ヒドロキシプレグネノロンというニューロステロイドを同定した。興味深いことに、非繁殖期のイモリにこのステロイドを脳室投与すると、急性的かつ濃度依存的にイモリの活動量を増加させた。また、このステロイドは濃度依存的にドーパミンの放出を増加させ、ドーパミン D2 様受容体アンタゴニストにより活動量を亢進する作用は抑制された。したがって、このニューロステロイドはドーパミン神経を介して動物の活動性を制御する新奇の神経活性物質であることが明らかとなり、動物の行動の制御について新たな知見が見出された。

16:15～17:00 演題 4

『唾液中コルチゾールによる妊娠期ストレス評価の可能性』

永岑光恵先生 (国立精神・神経センター精神保健研究所)

要旨：近年、妊娠期のストレスが胎児の発達に及ぼす影響が報告されており (Huizink et al., 2003), 妊婦が良好な妊娠期を過ごすことの重要性が指摘されている。そのため、妊娠期ストレスの客観的評価が求められているが、特に日本に

において妊娠期の精神内分泌ストレス反応に関する研究は少ない。ストレスの精神内分泌学的研究においては、非侵襲的に採取できる唾液中のストレスホルモンの指標であるコルチゾールを測定することが多い。特に慢性ストレスの評価には、起床後1時間のコルチゾール分泌量や日内コルチゾール分泌変化が用いられている。そこで、本研究では、妊娠中期・後期の妊婦を対象として、唾液中コルチゾールの起床後1時間および日内の変化を測定し、それらと睡眠・精神的健康との関連を検討した。研究会では、これまでの妊娠期におけるコルチゾール分泌変化に関する研究を概観した後、本研究の結果を発表する。

6. 懇親会

時間： 18：00 から 2 時間程度

場所： 同志社大学周辺にて開催

★詳細は参加人数を確定後にご連絡いたします。

7. 連絡先

第2回 PNEI 研究集会および懇親会参加申込み

木村健太（名古屋大学）

s050308d@mbox.nagoya-u.ac.jp

PNEI 研究会に関して

磯和勅子（三重県立看護大学）

tokiko.isowa@mcn.ac.jp